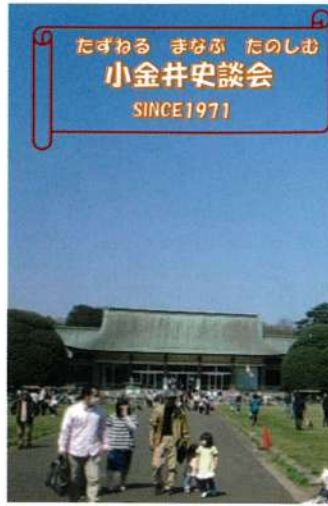




小金井の歴史文化とともに 史談会だより



発行 小金井史談会

令和6年06月26日 第34巻 第2号

<http://koganei-sidankai.com/>

松戸・本土寺のあじさい 2023. 6

会報『黄金井』の復刻版から

たてもの園の開設のころ

平成5年 近江屋 順吉

江戸東京博物館本館（両国）と、小金井公園の「たてもの園」が平成五年三月二十八日同時にオープンされること、新聞報道されました。

誘致運動の開始

東京都が、江戸東京博物館の構想を発表したのは、昭和五十七年でした。候補地として墨田区ほか都内七区と小金井市があげられ、各地では早速誘致運動が開始されました。

小金井市でも遅れるなど、昭和五十八年二月「小金井公園に江戸東京博物館を誘致する会」が結成されました。代表には皆木繁宏氏、芳須緑氏が選ばれ、史談会からは、森田駒太郎氏、近藤光男氏と私が、その運動の一員として参加しました。

街に横断幕を垂らし、ビラを貼り、史談会会員からも多くの署名を集めました。代表の方々は何度も都庁へ陳情に出掛けました。

しかし、戦い利あらず、昭和六十八年八月、都は墨田区国技館の隣接地に建設することを決定しました。

これで小金井公園案は絶望となり、誘致する会も解散しました。



たてもの園 前川國男邸 *都指定有形文化財

たてもの園の開設

しかし計画を進めていくうち、両国地区だけでは狭隘なことがわかり、野外収蔵物を展示する場所として、広い小金井公園に、という案が浮上しました。そして工事が平成三年一月から始められ、市民には明るい話題となりました。

分館の「たてもの園」は「下町

「山の手」「管理部門」「樹木保護

の四ゾーンに分けられ、開館までにまず九棟を移設、毎年二、三棟ずつ移築し全面完成の平成十二年までに約三十五棟を復元するという大構想。総事業費は約五十億円の予定とか。

既存の伊達家の門、名主の家、豪農の家、鍵屋などを園内移転、整備しました。新規に外から移築される

主な建物は、仁翁閣（高橋是清邸）、自証院霊屋、溝呂木家（千人同心の家）、子宝湯、小寺醤油店、武居三省堂などが決定しています。

小金井市公民館では、この博物館の目的と意義などを学習し、市民の理解を深めることを目的とした講座を企画しました。希望者を募ったところ、江戸ブームを反映して、内外から二百四十名が応募がありました。抽籤で六十名が選ばれ、毎週土曜日、計八回の講座が開かれました。

講師陣は、野外博物館収蔵委員長 早大教授渡辺保忠氏、ユニークな建築文化論で知られる東大助教授藤森照信氏、元国立歴史民俗博物館教授 小木新造氏らで、移転される建物の様式や価値、住んだ庶民の暮らしぶりなどについて、有益で楽しいお話をたっぷり聞かせてもらいました。

江戸博を学ぶ会

講座終了後、受講者有志が話し合い、今後もこれに関連した勉強を続けていこうではないかという声がまとまり、「江戸博を学ぶ会」という自主グループを結成しました。会員約三十名、芳須さんや森田さんはじめ、史談会からも多くの方が入会。私もその世話の一端を担っています。

毎月一回行事を催し、これ迄の見